

令和 5 年度事業報告

(令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人映像産業振興機構

内容

1. 事業の経過	4
2. 主な事業の実施状況	4
(1) 人材育成事業	4
① 短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成 (ndjc2023) 文化庁	4
② 映画スタッフ育成事業	5
③ 映画・映像人材育成事業	6
④ 日本映画の海外展開強化事業	6
(2) 内外の市場整備事業	7
① 令和5年度コンテンツ海外展開促進事業 (コンテンツ関連ビジネスマッチング事業)	7
② クリエイター志望者支援 企画・運営等業務 (京まふ2023)	12
③ コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金 (J-LOD)	13
④ コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金 (映像制作等支援) (JLOX)	14
⑤ 我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業費補助金 (コンテンツ産業の海外展開等支援) (JLOX+)	16
⑥ コンテンツ活用促進事業	17
⑦ アーカイブ中核拠点形成モデル事業	17
⑧ 全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査	18
⑨ 統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業 (アートキャラバン2) 独立行政法人日本芸術文化振興会	18
⑩ 文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業 (キャラバン)	18
⑪ 活字文化のグローバル発信・普及事業	19
⑫ 海賊版対策事業	19
⑬ 海賊版対策事業 (著作権セミナー (韓国))	20

⑭	国際文化交流・協力推進事業（インド政府主催「G20 文化プロジェクト」への参加に係る企画・実施業務）	文化庁	21
(3)	自主事業.....		22
①	VIPO アカデミー		22
②	セミナー・ワークショップ事業(有料)		23
③	AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業		25
④	情報サービス事業		26
⑤	フェスティバルスコープ事業		26
⑥	VIPO Film Lab 事業		27
⑦	IKURA 事業.....		30
⑧	カンヌ 監督週間 in Tokyo.....		30
⑨	VIPO Film Award.....		31
⑩	プチョン国際ファンタスティック映画祭 企画ピッチ「NAFF It Project」（6月30日～7月3日、韓国・富川）、「NAFF Fantastic Film School」（6月29日～7月5日、韓国・富川）		32
⑪	VIPO Indie Game Pitch Showcase（7月14日、京都）		32
⑫	「ATF×TTB Animation Lab & Pitch 2023」（12月6日～8日、シンガポール）		
	33		
⑬	交流促進事業		33
(4)	組織運営		33
①	会員の状況		33
②	通常総会、理事会、幹事理事会.....		34
(5)	広報活動.....		35
①	「VIPO 年間活動報告 2022」の発行		35
②	ホームページの運営.....		35
③	VIPO 会員とコンテンツ事業者へのメール配信		36

1. 事業の経過

令和5年度の通常総会（6月29日開催）でご承認いただきました、本年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成事業、内外の市場開拓等に関する事業を実施致しました。各事業の実施状況につきましては、次の通りであります。

2. 主な事業の実施状況

（1）人材育成事業

- ① 短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成（ndjc2023） 文化庁事業として18年目、35歳までの年齢制限を設けて5年目となる本年度は、33団体より54名（2022年度：32団体より66名）の推薦をいただきました。一次選考にて選出された15名がワークショップに参加し、最終選考の結果、4名の作家が製作実地研修に進みました。演出・画コンテ指導、脚本講師のもとでの脚本開発を経て、プロのスタッフ・キャストと共に短編映画作品を完成させ、3月7日（木）東京・丸の内TOEI①にて開催された合評上映会で披露されました。

また、2年目となる「長編映画の企画・脚本開発サポート」では、20名（2022年度：27名）の応募者の中から2名の作家が選出されました。2名の作家は講師による企画・脚本開発の指導を受けて初稿を完成させ、それをもとにパイロット映像を制作。3月末には完成したパイロット映像を使ったプレゼンテーションを、映画プロデューサーに向けておこないました。さらに昨年度の本事業にて開発された坂本悠花里監督『白の花果（“White Flowers and Fruits”）』（プロデューサー：山本晃久氏）が、香港の「The Hong Kong - Asia Film Financing Forum (HAF)」に出品されUdine Focus Asia Awardを受賞し、早速大きな成果を出しています。また、フォローアップとして、本事業にて完成した短編全85作品に対して国内外の映画祭や劇場上映の機会を提供しております。本事業出身監督85名のうち37名が商業長編映画監督デビューを果たしており（未公開作品含む）、2作目以降に挑む監督も増加しております。

《2023年度 ndjc 出身監督 商業長編映画監督作品》

ふくだももこ（ndjc2015）

『炎上する君』（中編）（2023/8/4（金）公開）

真田幹也（ndjc2006）

『尾かしら付き。』（2023/8/18（金）公開）

吉野耕平（ndjc2014）

『沈黙の艦隊』（2023/9/29（金）公開）

庄司輝秋 (ndjc2012)

『さよなら ほやマン』(2023/11/3 (祝金) 公開)

藤田直哉 (ndjc2021)

『瞼の転校生』(2024/3/2(土) 公開)

道本咲希 (ndjc2021)

『ほなまた明日』(2024 年公開予定)

② 映画スタッフ育成事業

文化庁

将来の映画スタッフを育成するため、映画制作現場での職業体験を希望する学生をインターンとして、実際のプロの商業映画の現場に受け入れて実習を行う人材育成事業を平成 30 年度より受託、毎年改善を重ねています。2024 年 3 月に米第 96 回アカデミー賞 視覚効果賞を受賞した『ゴジラ-1.0』は R3(2021)年度実習作品でした。

【実習実績】

実習成立 19 作品(16 社) 学生 46 名 / 作品応募 25 作品 学生応募 92 名

一般商業作品のほか、ndjc2023 の作品とも連携してインターン実習生を送り込んでいます。

【過去 3 年実績】

2020: 12 作品 (9 社) 41 名

2021: 21 作品(13 社) 49 名

2022: 15 作品(15 社) 50 名

【2024 年 4 月以降公開(予定)の実習作品】 ※タイトル情報解禁済作品

『鬼平犯科帳 血闘』山下智彦 監督／『碁盤斬り』白石和彌 監督

『ミッシング』吉田恵輔 監督／『ディア・ファミリー』月川翔監督

『もしも徳川家康が総理大臣になったら』武内英樹監督

『スオミの話をしよう』三谷幸喜監督／『箱男』石井岳龍 監督

『室町無頼』入江悠監督／『雪の花 とともに在りて』小泉堯史監督

『君の忘れ方』作道雄監督／『35 年目のラブレター』塚本連平監督

『BAUS 映画から船出した映画館』甫木元(ほきもと)空監督

また、2020 年度から毎年実施している第一線で活躍するプロを講師に迎えたオンラインセミナーを全国の映画・映像を学ぶ学生を対象に、撮影現場

スタッフの仕事として、全2回「入門編～映画製作の流れ」「演出部」を実施、計83人が参加しました。

③ 映画・映像人材育成事業

京都府

京都府からは、引き続き『京都映画企画市』を受託しました。

本年度の映画企画の応募数は、55企画と昨年の35企画から大幅に増え、歴代2位の数となり、かつ応募企画のレベルは確実に上がっています。ファイナリストには5企画が選出され、プレゼンテーションの企画コンテストにより、本年度の優秀映画企画は『サバイバル忍者』馬杉雅喜監督に決定しました。

パイロット版は、10月上旬から脚本執筆、撮影準備を重ね、2024年1月中旬に東映京都撮影所の協力により撮影されました。

企画市パイロット版(2016年度)から初長編化作品の蔦 哲一朗監督『黒の牛』(キャスト：リー・カンション、田中泯、音楽：故・坂本龍一)は、3月に完成し、2024年以降の公開予定です。

【(1) 人材育成事業及び(2) 内外の市場整備事業 にまたがる事業】

④ 日本映画の海外展開強化事業

文化庁

映画文化先進国である欧米の都市において、現地の映画関係者・映画教育機関等と連携して日本映画の上映を実施することにより、海外における日本映画の上映機会創出と海外展開を強化する事業です。

I. アメリカ合衆国・ロサンゼルスでプレスを中心とした映画業界人向けの日本映画上映会を実施

実施期間：9/26(火)～9/28(木) 3日間

上映会場：Linwood Dunn Theater (ハリウッド地区)

座席数：286席

上映テーマ名：Emerging Japanese Films

上映作品：3作品

『658km、陽子の旅』 熊切和嘉監督

『波紋』 荻上直子監督

『茶飲友達』 外山文治監督

招待者：現地在住の各映画賞の投票権を持つ業界関係者およびプレス関係者等

参加者合計数：399名

II. ニューヨークにて現地パートナーであるジャパン・ソサエティーと共に
日本映画の特集上映会を実施

実施期間：2024 年 2 月 15 日（木）～24 日（土）のうち 6 日間

上映会場：Japan Society オーディトリウム、IFC Center

座席数：ジャパン・ソサエティー260 席 IFC Center111 席

上映テーマ名：Family Portrait: Japanese Family in Flux ～家族
の肖像：変わりゆく日本の家族のかたち～

上映作品：10 作品

『歩いても、歩いても』『バカ塗りの娘』『泥の河』『東京暮色』

『さよなら、ほやマン』『トウキョウソナタ』『658km、陽子の旅』

『湯を沸かすほどの熱い愛』『長いお別れ』『浅田家！』

参加者：一般観客向け（一部業界関係者等の招待有）

チケット販売料金：

◎ジャパン・ソサエティー

一般 16 ドル、会員 12 ドル、学生/シニア 14 ドル

特別上映（レセプション付き）：一般 18 ドル、会員 14 ドル、
学生/シニア 16 ドル（対象作品：『湯を沸かすほどの熱い愛』）

◎IFC Center

一般 18 ドル、シニア&子供 15 ドル、会員 12 ドル

参加者合計数：1,707 名

（2）内外の市場整備事業

① 令和 5 年度コンテンツ海外展開促進事業（コンテンツ関連ビジネスマッチング事業）

経済産業省

日本発コンテンツの海外市場における持続可能な収益モデルの構築に資するビジネスマッチングモデルの確立を目的とし、複数のコンテンツ分野(映画、アニメ、放送番組、音楽、出版、ゲーム、キャラクターより 5 分野以上)を対象にしたビジネスマッチング等を、引き続き実施しました。

事業全体の枠組み



I. コンテンツ国際ビジネスマッチングの実施

- 1) 「中国ゲーム&アニメ会社 ビジネスマッチング」(9月29日、東京)
中国で成長産業として捉えられている ACG (Anime・Comic・Game) 業界をリードする企業・団体から19名が、日本のアニメ、ゲーム IP 企業との協業を目的に来日し、ネットワーキング交流会を実施しました。日本からは約50社が参加し、「新たに業務連携可能な会社と繋がる事ができた。」等の好意的な意見が多く寄せられました。

- 2) 釜山国際映画祭併設マーケット「ACFM」内ブース出展、「APM」企画ピッチ (10月7日～10日、韓国・釜山)

「ACFM (Asian Contents & Film Market) 2023」にブース出展し、日本映画3企画『サブマージ』(宮原拓也監督、林健太郎プロデューサー)、『置き手紙はかわいいハングル文字で』(キン・ジンホン監督、吉原裕友紀プロデューサー)、『ユミ、18才』(後藤美波監督、茂木美那プロデューサー) が合計71件の個別ミーティングを実施しました。

なお、VIPO が推薦した『Son & Sun』(川和田恵真監督、井手陽子プロデューサー) が、同時開催の企画マーケット「APM (Asian Project Market)」のピッチ企画に選ばれました。

- 3) 釜山国際映画祭併設マーケット「Busan Story Market」内ブース出展

(10月7日～10日、韓国・釜山)

「Busan Story Market」において、昨年同様 ACFM とパートナーシップを結び、出版物の映像化を目指して徳間書店、KADOKAWA、講談社、実業之日本社、COPUS JAPAN、吉本興業の6社が Japan delegation として参加。6社は4日間で計176件の個別ミーティングを行いました。

4) スウェーデン・ゲームビジネス・テクニカルツアー (10月23日～27日、スウェーデン・ストックホルム/シェブデ)

ストックホルムにおいて、ゲーム会社8社 (Mojang、Raw Fury など) への企業訪問を実施しました。シェブデにおいては、Sweden Game Conference へ参加、ゲーム会社2社 (Coffee Stain Studios、Iron Gate Studio) への企業訪問、Sweden Game Arena の中核組織である SCIENCE PARK SKÖVDE への訪問等を実施しました。日本からはアニプレックス、コトブキソリューション、サイバーエージェントの3社が参加し、スウェーデンのゲーム会社との活発な意見交換等が行われました。

5) 「A-Japan 第3弾」 (10月30日～12月31日、オンライン)

日本IPを北米での映像化・リメイク化を促進するため、ハリウッド関係者に紹介するオンラインピッチ&セールスプロジェクト。48作品の中から選ばれた4つのIPのピッチトレーラーとピッチデッキを、ハリウッドを中心とした約2000人の業界人に送付。同時に、プロデューサーや脚本家には、ハリウッドのエージェンシーから直接セールスをかけました。

参加IPは、小説「一橋桐子 (76) の犯罪日記」(徳間書店)、テレビドラマ「マイファミリー」(TBS テレビ)、テレビドラマ「Silent」(フジテレビジョン)、映画「さがす」(アスミック・エース)。

6) Anime NYC ビジネスマッチング (11月16日～18日、アメリカ・ニューヨーク)

海外での日本の楽曲・アーティストの普及を促進するため、業界注目度の高いアニメコンベンションである Anime NYC との協業で、同イベントに参加する米国の企業と、日本で選定したアーティストとのビジネスマッチングの場を用意し、アーティストのキャリアにつながるピ

ッチを実施しました。参加アーティストは、応募 38 組の中から選ばれた Billyrrom。

7) 台北ゲームショウ 2024 パブリッシャー向けピッチイベント (1 月 25 日～26 日、台湾・台北)

Ukiyo Studios と連携し、台北ゲームショウ 2024 にてパブリッシャー向けのピッチイベントを実施しました。ピッチした作品は、「Death the Guitar」と「ジオラマナイト」です。ピッチイベントにオフライン参加したパブリッシャーの数は 5 社で、オンライン参加したパブリッシャーの数は 14 社でした。実際にパブリッシャーから問い合わせがあり、商談が進んでいる案件があります。

8) Rotterdam Lab 2024: 若手プロデューサー参加支援

(1 月 27 日～31 日、オランダ・ロッテルダム)

世界 3 大映画祭に次ぐ重要な映画祭、「ロッテルダム国際映画祭」の企画マーケット「CineMart」の一部として実施されている

「Rotterdam Lab」に VIP0 推薦の若手プロデューサー：林健太郎

(Nothing New)、関口智子 (Modern Films) 2 名を派遣。世界のマーケットで成功するための企画ピッチの方法や自身の作品を売るための基礎となるノウハウを学ぶ場として、ワークショップや業界のエキスパートとのトークセッションやケーススタディなどが行われました。

9) Kidscreen Summit 2024 ジャパンブース出展 (2 月 7 日～10 日、アメリカ・サンディエゴ)

北米最大のキッズエンターテインメント産業見本市である Kidscreen Summit 2024 において、ジャパンブースを 6 度目出展。子ども・ティーン向けコンテンツを持つ日本企業に海外マーケットへ企画・作品を展開するための機会を提供。アスミック・エース、Custom Nuts、テレビ朝日、テレビ東京、TMS Entertainment USA, Inc.、zomia の 6 社が参加し、4 日間欧米の大手スタジオ等と商談およびネットワーキングを行いました。

10) Berlinale Co-Production Market Visitors Programme 参加支援

(2月16日～19日、ドイツ・ベルリン)

ベルリン国際映画祭併設の国際共同製作マーケット Berlinale Co-Production Market の一部として実施されている「ビジターズプログラム」に VIP0 推薦のプロデューサー3名を派遣：小出大樹

(K2Pictures)、竹中香子 (ハイドロブラスト)、古山知美 (イーアヘルツ株式会社)。これから国際共同製作を目指す新進映画プロデューサーが現地で各種セミナーやミーティングに参加し知見を深めました。また、在ドイツ日本大使館主催の「Japan Night」においてヴィムベンダース監督をはじめとする世界の映画関係者の前でピッチを行い、今後の国際共同製作の足掛かりとなる出会いを掴みました。

11) ソングライティングキャンプ in タイ (2月19日～23日、タイ・バンコク)

音楽クリエイターの支援の一環として、日本と海外の音楽クリエイターの共同作業によるコーライトセッションをタイ・バンコクにおいて実施しました。日本人音楽家10名と、タイのアーティスト10名が計15曲を制作し、タイのアーティストや所属レコードレーベル等にピッチングされアジア発のヒット曲創出を目指しました。

12) 韓国映像化 IP ビジネスマッチング (2月26日～28日、オンライン)

韓国の映像制作会社3社 (B.A. Entertainment、BIG OCEAN ENM、BULLDOZER STUDIO) に日本の小説・コミック・ライトノベルなどの原作や映画・ドラマなどのリメイク権を売り込むことを目的としたビジネスマッチングを実施しました。日本側からは5社 (徳間書店、朝日新聞出版、テレビ東京、PHP 研究所、実業之日本社) が参加しました。日本側から優良な IP が紹介されたこともあり、韓国側が多数の IP の映像化を検討しているという状況になっています。

【ビジネスマッチング実施スケジュール】

No.	事業名	期間	実施場所	ジャンル	現状
1	北京 ビジネスマッチング	9/20	日本	アニメ・ゲーム	実施報告
2	釜山国際映画祭 APM (Asian Project Market) 企画ピッチ	10/7～10	韓国	映画	実施報告
3	釜山ストーリーマーケット (BSM) 出展&ピッチ	10/7～10	韓国	出版	実施報告
4	Sweden Game Conference ビジネスマッチング	10/23～27	スウェーデン	ゲーム	実施報告
5	A-Japan ビジネスマッチング	10/30～12/31	アメリカ	IP	実施報告
6	JPOPアーティスト ビジネスマッチング @ Anime NYC	11/17～19	アメリカ	音楽	実施報告
7	台北ゲームショウ ピッチ	1/25、26	台湾	ゲーム	実施報告
8	ロッテルダム国際映画祭 Rotterdam Lab 企画マーケット ピッチ	1/27～31	オランダ	映画	実施報告
9	キッズスクリーンサミット 出展&ピッチ	2/4～7	アメリカ	アニメーション	実施報告
10	ベルリン国際映画祭 EFM 企画マーケット ビジネスマッチング	2/16～19	ドイツ	映画	実施報告
11	ソングライティングキャンプ in タイ	2/19～23	タイ	音楽	実施報告
12	韓国映像化IP ビジネスマッチング	2/26～28	韓国	IP	実施報告

II. コ・フェスタの実施

「コ・フェスタ 2023 実行委員会」(9月12日、リアル開催)

コンテンツ業界団体、関係省庁、政府機関、関係自治体の代表及びコンテンツ関連イベント主催者の代表で組織をし、各イベントの内容紹介、今年度の事業内容について説明を行い、イベント間の連携と情報共有を図りました。

場所：野村カンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

出席者総数：41 名 内訳：委員-21 名（代理 9 名含む）、委員同伴者-13 名、イベント関係者-7 名

② クリエイター志望者支援 企画・運営等業務（京まふ 2023）

京都市

京都市から『クリエイター志望者支援 企画・運営等業務』を受託して

「京都国際クリエイターズアワード 2023」と「マンガ出張編集部」を実施いたしました。

「京都国際クリエイターズアワード 2023」は、「京都国際マンガ・アニメ大賞 2022」の賞の部門体系を変更し名称も新たに、コミック、アニメーションの 2 コンテスト体制で運営となりました。応募総数は 1,010 作品、全世界 75 ヶ国/地域からの応募がありました。

本年度の最優秀賞受賞者は、コミックコンテストでは『あなたのそばの怪異駆除屋』の護静リュースケ氏(東京都)、また、CG アニメコンテストでは『子猫の配達員うーにゃん』のスタジオななほし氏(東京都)となりました。

11月17日には「京都国際クリエイターズアワード2023」の授賞式を京都市役所にて実施し、11月18日・19日の二日間「マンガ出張編集部」を京都国際マンガミュージアムで開催しました。

③ コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金(J-L0D)

経済産業省 556.5 億円

I. J-L0D (1) 海外向けのローカライズ&プロモーションを行う事業の支援

コンテンツが主体となった海外展開を行う際のローカライズおよびプロモーションを行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助する事業です。

確定検査は全て終了し、令和5年3月末までに全件の支払いが完了しました。

II. J-L0D (2) 海外からの資金調達等のためのピッチングを行う事業の支援

海外展開を目指すコンテンツの本格的な製作に必要な資金調達、ライセンス販売やパートナー獲得のためのピッチ映像の制作等を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助する事業です。

確定検査は全て終了し、令和5年3月末までに全件の支払いが完了しました。

III. J-L0D (3) with コロナ時代におけるエンタメビジネスを行う事業の支援

収益チャネルの多様化や顧客体験の向上によって、新たな顧客や、事業機会の確保、収益の多様化・強靱化を行う、日本発コンテンツを活用したイベントの実施による新たなビジネスモデルへの転換を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。また、緊急事態宣言等によるイベント開催制限等の影響によって、イベント等を中止せざるを得ない場合、開催等を延期・中止した公演、展示会、遊園地・テーマパークのキャンセル費用および関連する海外向けプロモーション動画の製作・配信を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企

業・団体に必要経費の一部を補助する事業です。

「ビジネスモデル革新枠」について、確定検査は全て終了し、令和 5 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

「収益基盤強化枠」について、確定検査は全て終了し、令和 5 年 6 月末までに全件の支払いが完了しました。

「キャンセル料支援」について、確定検査は全て終了し、令和 5 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

IV. J-LOD (4) コンテンツ業界の DX に資するシステムの開発・実証を行う事業の支援

コンテンツ製作・流通工程の効率化に資するシステムの開発・実証を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助する事業です。

確定検査は全て終了し、令和 5 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

V. J-LOD (5) ストーリー性のある映像制作・発信を行う事業の支援

デジタル配信を念頭においたストーリー性のある映像の制作・発信を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助する事業です。

確定検査は全て終了し、令和 5 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

④ コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金（映像制作等支援）

(JLOX)

経済産業省 50.2 億円

I. JLOX (1) : ライブエンタメ産業の先進的ビジネスモデルへの転換支援
より洗練されたライブエンタメ等のコンテンツ産業の発展に繋げ、さらなる応用的な取組への期待度が高い事業を中心に支援することで、次世代デジタル環境に対応したライブエンタメコンテンツを創出することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 6 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

II. JLOX（２）：映像制作等支援を行う事業

・国内制作会社等による映像制作支援

映像作品の国際競争力強化に向け、海外展開を念頭に高い戦略性を持って、高品質な映像作品を制作する取組を支援することで、映像産業における海外需要獲得を目指す事業者に対し、映像制作事業の国際競争力強化に向けた取り組みを促すことを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となつて実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 6 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・地域ブランディング等を行うための映像（ブランデッドコンテンツ）の制作・発信を行う事業の支援

地域ブランディング等を行うためにブランデッドコンテンツを活用し、地方創生などに資する映像制作を通じて、国内外問わず地域需要を創出させることなどを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となつて実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 6 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・海外制作会社による国内ロケ誘致等に係る支援

海外映像制作者等による日本国内でのロケ誘致に係る制作費を支援することで、ロケを誘致し、日本国内の人材活用や地域との協力を通じて、映像産業や地域の振興、インバウンドの増加等を促すことを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となつて実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 6 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・コンテンツ製作の生産性向上に資するシステムの開発・実証を行う事業

コンテンツ業界の DX 支援を行う事業であり、web3.0（ブロックチェーン技術等）、AI（生成系 AI を含む）をはじめとした新たな技術導入等

による、コンテンツ製作・流通工程の効率化や強化に資するシステムの開発・実証及び業界内の普及促進の取組を支援します。これにより、コンテンツ産業が持続的に発展するエコシステムを構築し、ひいてはクリエイターをはじめとしたコンテンツ制作者の事業環境の健全化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 6 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

III. JLOX（3）：海外向けのローカライゼーション&プロモーションを行う事業の支援

コンテンツが主体となった海外展開を行う際のローカライズ及びプロモーションを行う事業者に対して、補助金を交付することにより、日本発のコンテンツ等の海外展開を促進し、「日本ブーム創出」を通じた「関連産業の海外展開の拡大」及び「訪日外国人等の促進」につなげることを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 6 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

⑤ 我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業費補助金（コンテンツ産業の海外展開等支援）（JLOX+）

経済産業省 62 億円

令和 5 年度「我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業費補助金（コンテンツ産業の海外展開等支援）」の事務局を令和 6 年 1 月に受託致しました。

- ・海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援
- ・国内映像制作を行う事業（プロダクション・ポストプロダクション支援）
- ・国内映像企画開発を行う事業（プリプロダクション支援）
- ・海外制作会社による国内ロケ誘致等に係る支援
- ・次世代デジタル技術等を活用したデジタルコンテンツ創出支援
- ・コンテンツ製作の生産性向上に資するシステムの開発・実証支援

⑥ コンテンツ活用促進事業

東京都

令和5年度予算における当該事業の事務局を受託しています。この事業では、コンテンツ企業と異業種企業（製造・医療・福祉・教育・商店街・小売・観光等）のニーズを踏まえたセミナーの開催と、相互の連携を促進するためのマッチング交流会を実施しました。セミナーはマッチングに先駆け10月23日にYouTube上で公開し、約90人の方にご視聴いただきました。また、マッチング交流会はオンラインにて11月21日（火）・22日（水）の2日間開催し、参加企業数はコンテンツ企業50社、異業種企業21社が参加し、盛況のうちに終了しました。

I. セミナー 2本

「企画×データで考えるマンガ・アニメとコラボしたデジタルプロモーションの秘訣」

「キャラクター・アニメーションの積極活用で受け手を楽しませる企業ビデオ・観光PRコミュニケーションの“プチ・エンタメ力”」

II. マッチングイベント

マッチング成立212件、うち当日商談数164件

⑦ アーカイブ中核拠点形成モデル事業

国立映画アーカイブ

今年度から文化庁から国立映画アーカイブに事業移管した6年目となるアーカイブ中核拠点形成モデル事業を受託しました。

今年度の調査研究業務の対象地区は、東京練馬地区と東海地区とし、東映東京撮影所、名古屋鉄道、名古屋市博物館、名古屋タイムズアーカイブス委員会（以上、愛知県）、羽島市映画資料館（岐阜県）、亀山市歴史博物館、小津安二郎松阪記念館（以上、三重県）の調査を実施しました。

「映画資料所在地情報検索システム（略称：JFROL）」は、7月4日に一般公開しました。また本年度は、調布市立図書館のデータベースの連携作業を実施し、3月中に完了する予定で、これにより関係資料関数は6館、検索可能資料数は約23万点となる予定です。

「全国映画資料アーカイブサミット2024」は、2024年1月26日に実施しました。5回目の開催となる今回のサミットでは、地域連携をテーマにしたシンポジウム、映画館にまつわる資料アーカイブや映画分野の展覧会キュレーションに関する発表など多様なプログラムを実施しました。

映画資料調査の実証展示“御意見無用！東映東京撮影所物語／関連展示：知られざる「日本映画博覧会」”を、2024年2月10日～18日の期間に、調布市文化会館たづくり北ギャラリーにて実施しました。今年度の調査に因んで東映東京撮影所と1957年に愛知県犬山市で開催された日本映画博覧会

をテーマに展示をキュレーションしました。今年度の東映東京撮影所の調査でご協力をいただいた東映様には、展示協力及び広報室のご協力もいただきました。

⑧ 全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査

国立映画アーカイブ

本年度から事業主管が文化庁から国立映画アーカイブに変更となりました。本年度も運営事務局をジャパン・フィルムコミッション(JFC)とコンソーシアムを組み双方のネットワークを活かした運営を実施しました。その結果、本年度の全国ロケーションデータベースのアクセス数として、約120万人のユーザーにより、約190万回のページビューがありました。昨年度と比較して、ユーザー数は1.7倍、ページビュー数は1.5倍と大幅に増加しました。一昨年度から昨年度にかけてのアクセス数については、ユーザー数、ページビュー数ともに2倍増となっています。

⑨ 統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)

独立行政法人日本芸術文化振興会

本事業は、コロナで傷んだ鑑賞環境を元に戻すとともに、芸術団体の活動機会の確保による芸術水準の維持と地域の文化芸術振興を主たる目的として、文化芸術統括団体による公演等に対する助成を行う、文化庁の令和4年度補正予算事業です。

予算元である文化庁、委託元である芸文振、及び交付決定された17団体(地域連携型:2団体、大規模公演型:15団体)と緊密に連絡調整を行いながら、事務局として適切に事業運営を行いました。

1年間を通じて、ほぼ想定通りの進捗で運営できており、提出期日となる2月29日までに全団体から実績報告を回収し、年度内に全団体に額の確定通知書を発送することができました。

⑩ 文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(キャラバン)

独立行政法人日本芸術文化振興会

本事業は、文化芸術の質の向上と文化芸術の重要性や魅力を発信するとともに、芸術団体の活動拠点の形成に資することを目的として、文化芸術統括団体による有料公演に対する助成を行う事業です。

予算元である文化庁、委託元である芸文振、及び交付決定された5団体と緊密に連絡調整を行いながら、事務局として適切に事業運営を行いました。

交付決定された5団体は全て、並行して実施している「⑧統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)」の交付決定団体でもあるため、効率的に事業を実施できるよう、両事業で共通のプロセス・システム等を整備しました。

1年間を通じて、ほぼ想定通りの進捗で運営できており、提出期日となる2月29日までに全団体から実績報告を回収し、年度内に全団体に額の確定通知書を発送することができました。

⑪ 活字文化のグローバル発信・普及事業

文化庁

文化庁から当該事業を受託し、その中でいくつかの事業を実施しました。助成金事業に関しては、数多くの応募の中から企画書の翻訳・作成：103作品、サンプルの翻訳：32作品を採択しました。すでにいくつかの採択作品の海外翻訳出版が締結されています。日本の活字文化のプロモーションの一環としてフランクフルト・ブックフェアにおいて、以下の施策を実施しました。

- ・ドイツ出版社×日本出版社・エージェントによるビジネスマッチング
- ・村田沙耶香さんのトークショー及びサイン会
- ・市川沙央さん、李琴峰さん、辻村深月さんのパネル展示

第8回翻訳コンクールに関しては、261件の応募があり、その中から3名の受賞者を決定しました。3月10日に「BUNGA KU DAYS 2024 SPRING」と題した表彰式と記念シンポジウムを九段会館テラスにて開催しました。第9回翻訳コンクールの開催発表も1月に行っています。また、日本書籍出版協会と連携して、全6回の出版社向け海外展開セミナーも実施しました。

⑫ 海賊版対策事業

文化庁

文化庁著作権課からの受託2年目の事業になります。特定の国・地域等における海賊版取締りの実効性を高めながら、正規版の流通を促進するため、東南アジア3カ国（シンガポール、タイ、インドネシア）の政府機関及び事業者の知財関係者を対象としたセミナーをAFAシンガポールと連携し現地会場にて実施しました。（現地参加60名、後日アーカイブ配信での視聴回数約5000）

セミナータイトル：AFA Business Connect 2023 (ABC23) ～ Connecting best practices in copyright protection and content development in Southeast Asia

開催日：2023年11月24日(金)11:00～15:00

会場：Suntec City Convention Hall

主催：文化庁

運営：VIPO、SOZO

協力：TMI 総合法律事務所 / 一般社団法人 ABJ

午前の部には、日本・シンガポール・タイ・インドネシアからエンターテインメント弁護士が登壇し、自国の知的財産・著作権に関する政府方針の最新情報を共有すると共にアニメ業界における著作権侵害の最新事例を紹介。午後の部では、著作権・ライツビジネスを展開する円谷プロダクションと Hakken が登壇し、日本アニメの適正なライツクリアランス（配給、キャラクターライセンス、コンテンツプロモーション等）やアジアをはじめとする海外での展開例を紹介したほか、全登壇者によるパネルディスカッションと会場オーディエンスとの Q & A を実施し活発な意見交換が行われました。初の対面開催となった今回は、現地で有機的なネットワーキングも行われ、今後の課題解決のきっかけとなるセッションとなりました。

【新規受託事業】

⑬ 海賊版対策事業（著作権セミナー（韓国））

文化庁

日本の権利者の韓国における権利行使を支援し、ひいては両国の文化交流の促進に資するため、韓国の著作権担当部局である韓国文化体育観光部職員並びに韓国著作権委員会著作権調査局局長を招聘し、両国間での著作権分野に係る最新情報を共有するとともに、連携方策を検討することにより、両国間の著作権及び著作隣接権分野における連携強化をはかるために協議・セミナーを開催しました。

タイトル：第 17 回 日韓著作権協議(政府間協議)並びに著作権セミナー

開催日：9 月 13 日(水)、14 日(木)

会場：VIPO、集英社（13 日）、全国町村会館（14 日）

主催：文化庁

運営：VIPO

実施内容：

9 月 13 日(水) 9:00-11:50 セミナー午前の部

- ・経済産業省「海賊版対策と正規版流通に関する施策について」
- ・総務省「海賊版対策、特に CDN サービスの悪用防止を含む対策について」

9月13日(水) 14:00-16:30 セミナー午後の部

- ・ABJ/集英社「海賊版被害の実態について」
- ・桜坂法律事務所「クラウドフレア訴訟に関するケーススタディ」
- ・コンテンツ海外流通促進機構(CODA)「CODAで実施されている具体的な海賊版対策事業の紹介」
- ・映像産業振興機構「正規版流通を促進する取り組み」

9月14日(木) 10:00-12:30

日韓著作権協議(政府間協議)

【新規受託事業】

- ⑭ 国際文化交流・協力推進事業(インド政府主催「G20文化プロジェクト」への参加に係る企画・実施業務) 文化庁
- G20首脳会議に合わせインド文化省はG20首脳会議のテーマである「One Earth, One Family, One Future.」の元、「G20文化プロジェクト」を実施し、日本からも日本の文化財や文化遺産等の展示を行い、首脳会議に参加された方々に鑑賞いただきました。

開催日:2023年9月9日(土)、10日(日)

会場:インド・ニューデリー International Exhibition-cum-Convention Centre (Pragati Maidan)

参加国:G20メンバーの20国、並びに9つの招待国

実施内容:

<G20文化プロジェクト>

I. Digital Museum: Cultural Corridor (展示)

下記5つのカテゴリで展示を実施。

- 1) Objects of Cultural Significance 文化的意義のあるもの(物理的展示物)
- 2) Iconic Cultural Masterpieces 象徴的な文化的傑作(デジタル展示物)
- 3) Intangible Cultural Heritage 無形文化遺産(デジタル展示物)
- 4) Natural Heritage 自然遺産(デジタル展示物)
- 5) Symbols of Democracy 民主主義の象徴に関連する品(デジタル展示物)

日本からは東京国立博物館所蔵の重要文化財『小袖 白綾地秋草模様』

(通称〈冬木小袖〉)修理プロジェクトの一環で制作された「ねんどろいど 初音ミク 冬木小袖 Ver.」等を展示。

II. Anthology of Poems: Under the Same Sky (詩集)

〈Anthology of Poems: Under the Same Sky〉と題した詩集を発行するプロジェクト。G20 参加国並びに招待国から選ばれた、G20 のテーマに沿った詩歌が各国の言語と英語翻訳で掲載されました。日本からは 2021 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞・受賞者 堀田季何氏の『永遠平和に向かって (Towards Perpetual Peace: 22 Haiku)』 俳句 22 句を掲載。

(3) 自主事業

① VIPO アカデミー

2015 年 5 月に開設し、今年度は 9 年目を迎えました。

コロナ禍の間はオンラインで実施していましたが、今年度より会場開催を増やしました。(コーポレートリーダーコース、プロジェクトリーダーコース)

また、新講座として「グローバルビジネスコース (プレゼンテーション編)」を開講。「業界研究ベーシックコース」は大きく内容を変更し、開催方法をハイブリッド(会場+オンライン)にしました。他のコースも受講生の要望や学習効果を考慮し、ブラッシュアップを行っています。

今年度の受講者数(業界研究ベーシックコースの単発受講を除く)は 128 名で、昨年約 2 倍でした。また、開講以来の受講企業・団体数は 150 社(重複なし)、受講者数は 921 名(延べ)となりました。

I. 春期(5月～8月)の実績

「コーポレートリーダーコース」参加者 6 名

「プロジェクトリーダーコース」参加者 13 名

「アカウンティング・エッセンシャルコース(財務会計編)」参加者 12 名

「アカウンティング・エッセンシャルコース(管理会計編)」参加者 15 名

II. 秋期(9月～11月)の実績

「コーポレートリーダーコース」参加者 13 名

「プロジェクトリーダーコース」参加者 11 名

「リーガル・エッセンシャルコース(基礎編)」参加者 11 名

「リーガル・エッセンシャルコース（実践編）」参加者 10 名
「グローバルビジネスコース（プレゼンテーション編）」参加者 8 名

III. 冬期(1 月～3 月)の実績

「業界研究ベーシックコース」：参加者：(一括) 12 名、(単発) 127 名
「グローバルビジネスコース（交渉・コミュニケーション編）」参加者 3 名
「リーガル・エッセンシャルコース（基礎編）」参加者 7 名
「アカウンティング・エッセンシャルコース（財務会計編）」参加者 4 名
「アカウンティング・エッセンシャルコース（管理会計編）」参加者 3 名

IV. インハウス研修その他

下記の 5 回の研修を実施しました。

4/21 ポケモン様「リーガル研修」

5/8 TBS 様「英語セールスピッチ研修」

10/5 コーエーテクモゲームズ様「マーケティング研修」

10/29, 11/25 城西国際大学様「学生向け業界研究セミナー」

V. 来年度の展望

学習効果向上と参加者のニーズに合わせ、「コーポレートリーダーコース」「プロジェクトリーダーコース」では、更に会場開催日を増やす予定。また、「グローバルビジネスコース」「業界研究ベーシックコース」では、内容をブラッシュアップして、より質の高い講座内容と参加者数増加を目指します。

② セミナー・ワークショップ事業(有料)

I. 「福井健策弁護士法律セミナー コンテンツ業界人が知っておきたい AI ビジネスの権利問題」(5 月 19 日、リアル開催)

講師：福井健策氏 弁護士

参加者：40 名 (定員 40 名)

II. 「韓国 WEBTOON（ウェブトゥーン）スタジオとの共同制作で得た経験と日本 WEBTOON 全体の展望」(7 月 25 日、オンライン開催)

講師：芝辻幹也氏 株式会社フーモア 代表取締役社長

参加者：57 名

III. 「アニメ制作スタッフのためのシナリオ読み解き方講座」

(8 月 30 日、9 月 6 日、2 日間リアル開催)

講師：小林雄次氏 脚本家／小説家

参加者：12 名 (定員 12 名)

IV. 「『ジョン・ウィック：コンセクエンス』チャド・スタエルスキ監督
セミナー『ハリウッドが“見たい”日本の魅力、日本コンテンツのソ
フトパワーの正体とは?』」

(9 月 12 日、リアル開催)

講師：チャド・スタエルスキ氏 映画監督

参加者：68 名

V. 「城西国際大学キャリアセミナー2023」

1 日目：10 月 28 日(土) (リアル開催)

登壇企業：

松竹、S-SIZE (ジャンル：舞台・ステージ制作)

ビクターミュージックアーツ、GATE (ジャンル：芸能プロダクショ
ン)

参加者：100 名

2 日目：11 月 25 日(土) (リアル開催)

登壇企業：

博報堂、アイズ (ジャンル：広告・プロモーション)

ピクス、ABC アニメーション (ジャンル：映像・アニメ制作)

参加者：100 名

VI. 「映画プロデューサー養成講座 基礎編」

(12 月 6 日、7 日、リアル開催)

講師：安藤紘平氏 早稲田大学名誉教授

ゲスト講師：吉野耕平氏 映画監督

参加者：18 名

VII. 「福井弁護士セミナー いま知っておきたい、日本原作の海外ライ
センス攻略法 2023ー対ハリウッド・プラットフォーム契約を中心に

ー」

(12月14日、リアル開催)

講師：福井健策氏 弁護士

参加者：40名 (定員40名)

VIII. 「分部悠介弁護士 中国ビジネス攻略セミナー」

(1) ビジネス編：3月18日 (オンライン開催)

(2) 法務編：3月19日 (オンライン開催)

講師：分部悠介氏 弁護士

参加者：ビジネス編28名、法務編21名

IX. 「「TOKYO VICE」アラン・プール氏「ハリウッド・フロントランナーの視点」セミナー」

(3月26日、オンライン開催)

登壇者：アラン・プール氏 「TOKYO VICE」シリーズ エグゼクティブ・プロデューサー

参加者：82名

X. 「映画脚本読み込み講座」

(3月27日、28日、リアル開催)

講師：加藤正人氏 脚本家

参加者：14名

(参加総数580名)

③ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業

将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すと共に、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築する事を目的とし、AFI (American Film Institute) Conservatory へ留学を希望する日本人の推薦活動を運営しております。AFI Conservatory への入学が正式に決定した場合、“T.Y. 奨学金制度” が AFI Conservatory の判断により給付される可能性があります。

また、将来的には留学生、卒業生等の講演やワークショップを日本で実施するなど、AFI へ留学を希望する日本人の数および質の向上を目指しております。

・VIPO 内サイトにおいて募集告知及び会員を含め約11,000名に告知メ

ール配信（7月）。

- ・映像・演劇関連2サイトに告知投稿（8月）。
- ・募集前後に本年度問い合わせ2件あり（7月）。
- ・締め切りは9月25日。本年度は応募が8件あり、うち5名が2次審査に進み面談、そのうち2名を推薦したが、合格には至らなかった。

④ 情報サービス事業

I. Japan Creator Bank（略称：JCB）

今年度は年間で約140件の問い合わせがありました。問い合わせ件数は年々増加しています。依然として国内からの問い合わせ（許諾や仕事の依頼等）が多い状況ですが、海外からも“映画のプロデューサーを探している”“日本の脚本家に取材したい”“日本のアニメ監督や声優にイベントに出演してもらいたい”等の問い合わせがいくつか来ている状況です。一部のジャンルについては情報の更新作業及び新規クリエイターの追加作業を実施しました。

II. Japan Book Bank（略称：JBB）

今年度を通して71件（ドイツ：11件、フランス：10件、イタリア：9件、ウクライナ：9件、台湾：6件、スペイン：5件、トルコ：4件他）の翻訳出版契約が成立しました。うち36件（50%）がコミックの翻訳出版契約となっていますが、文芸で14件、実用書でも10件の契約が成約しており、成約ジャンルの幅が広がってきています。また、日本出版インフラセンターの持つ出版データベース「JPRO データ」と連携し、国際ジャンルコード Thema での検索や ISBN コードによる書誌情報自動読み込み機能を追加実装しました。活字文化のグローバル発信・普及事業と連携して、フランクフルト・ブックフェアにブースを出展し、様々なプロモーション活動を実施しました。これら施策の結果として、出版物登録が約6,200件と大幅に増え、海外からのID登録者も70超の国と地域から約860人になりました。

⑤ フェスティバルスコープ事業

I. 【内容】海外映画祭プログラマー等への日本映画PR・紹介を目的として、ヨーロッパのプラットフォーム「Festival Scope Pro」へのVIPO特設ページ開設と日本映画PRを行う。

II. 【時期】随時更新

【本数】を2025年3月末までの契約で最大50本程度の日本映画掲載

III. 【掲載ページ】 <https://pro.festivalscope.com/label/show/vipo>

IV. 【掲載対象作品】 VIPO が実施する事業に参加した監督・プロデューサー一等の過去作品や最新作を掲載。事業としては、特に国際的な展開に興味のある VIPO Film Lab の参加者等を対象とする。

2025 年 3 月末までの契約 (VIP0・フェスティバルスコープ間) の為、今後
も随時希望を募り掲載していく。

現状、4 月以降の掲載希望に向けて準備中 (新作の為、公開時期を調整
中)。

⑥ VIPO Film Lab 事業

グローバルな視野を持ち国内外で活躍できるプロデューサー、監督、脚本家など業界プロフェッショナルを育成する場として、実践トレーニング、ワークショップ、オンライン講座など、目的別に様々な人材トレーニング等を提供する事業です。

今年度から 7 コースを 9 コースに拡大して実施。また事業独自の WEB サイトもアップデートしました。

<https://filmlab.vipo.or.jp/>

I. 脚本コース@ウディネ (継続)

【開催時期】 4/26～28 (3 日間)

【講師】 Clare Downs 氏

【参加者】 小山内照太郎氏 (Survivance)、鈴木徳至氏 (コギトワークス)、後藤美波氏 (Cobalt Pictures)

昨年に続きイタリア・ウディネで開催された「ファーイースト映画祭」の FOCUS ASIA(インダストリー部門)にて Clare Downs 氏の脚本個別指導を受講可能な脚本コースの参加者と共に、今年から FOCUS ASIA の企画マーケット「ALL GENRES PROJECT MARKET」およびワーク・イン・プログレス部門「FAR EAST IN PROGRESS」への参加者もそれぞれ募集。脚本コース、企画マーケット、ワーク・イン・プログレスの 3 つのプログラムにそれぞれ 1 名が参加しました。

II. 国際プロデューサーコース (継続)

国際的に活躍できる若手プロデューサー育成のため、映画祭や映画マーケット、セールスエージェントや企画マーケットの役割など、国際共同製作等に必要な知識を学べるコースをオンライン・対面のハイブ

リッド形式にて実施しました。講師は業界におけるプロフェッショナルで、半数以上の講師が海外ベースの講師となり、直接質問等の出来る貴重な機会の提供を行いました。

【開催時期】 8月～12月（全10回）対面・オンライン開催

【講義内容と講師】

- 第1回：8/3（木）16時半～18時「映画祭とは、映画祭の活用方法」
第2回：8/10（木）16時半～18時「国際共同製作『PLAN 75』ケーススタディ」第3回：8/17（木）16時半～18時「海外PRの役割」
第4回：8/24（木）16時半～18時「国際共同製作のケーススタディ『Tiger Stripes』」
第5回：8/29（火）16時半～18時「セールスエージェントの役割」
第6回：9/7（木）16時半～18時「国際映画製作のケーススタディ」
第7回：9/14（木）19時～20時半「脚本分析：『ドライブ・マイ・カー』」
第8回：9/28（木）10時～11時半「海外向け企画ピッチングについて」
第9回：11/10（金）15時～16時半「国際ワークショップにおけるピッチング」
第10回：12/14（木）16時～17時半「アジアの国際共同製作支援について」アジアの映画関係機関担当者

【参加者】東映、松竹所属プロデューサーやインディペンデント・フリーランスのプロデューサー等、国際的に活躍を志望するプロデューサー・業界関係者（25名）（応募者は順調に拡大している）

III. 映画の企画脚本講座（継続）

【開催時期】 7/11、12（2日間）

【講師】加藤正人氏（脚本家・映画『クライマーズ・ハイ』、『風待ち』）

【参加者】映画プロデューサー、監督、制作スタッフなど12名
オリジナル映画企画案をブラッシュアップして、いかに良い映画の脚本にしていくかということに主眼を置いた講座を実施しました。

IV. 俳優コース（継続）

第一線で活躍されている映画監督による「俳優育成ワークショップ」

【開催時期】 11/21、28（2日間）

【講師】 犬童一心監督

【参加者】 俳優 18 名

将来の映像産業を担う俳優の発掘と育成を目指し、第一線で活躍する映画監督による俳優養成の2日間集中講座を開催。俳優ひとりひとりに直接演技指導を行いました。

V. 監督コース（継続）

【開催時期】 11月13日（月）～11月17日（金）（全5日間）（対面実施）

【講師】 ブリス・コヴァン氏（フランス国立映画学校（FEMIS）ほか）

【参加者】 4 名

フランス国立映画学校（FEMIS）をはじめ世界中で教鞭をとるブリス・コヴァン氏を講師に招き、世界に通用する映画表現や専門知識をワークショップ形式でレクチャー。日本の教育現場では触れられない、コミュニケーションを重視した実践的かつロジカルな指導を提供しました。

VI. 映画の企画開発講座（継続）

【開催時期】 2/26, 2/27（2日間）

【講師】 池端俊策氏（脚本家）、米倉リエナ氏（演出家、演技講師）

【モデレーター】 篠原圭氏（NHK エンタープライズ）

【参加者】 10 名

映画の企画を作成することに主眼を置いた講座をリアル開催。10名の受講者が自分の企画をどのような作品にしたいかを提案し、講師からの講評・アドバイスでブラッシュアップしました。

VII. First Cut Lab Japan（新規）

【開催時期】 2023年11月～2024年3月（内、3日）

【参加企画】 2 企画

【参加者】 監督、編集、プロデューサー

「First Cut Lab Japan」は、長編映画の編集ステージにフォーカスした包括的なトレーニングとコンサルテーションを合わせたワークショップ。3日間に渡るワークショップでは、①プレミーティング、②インダストリー、③編集コンサルテーションの3構成にて粗編集版

(First Cut) を元に経験豊かな編集コンサルタントおよび国際的な映画業界のアドバイザー3名から専門的なフィードバックを受けました。ワークショップ終了後は、さらなる編集に向けての指針となるワークショップのレポートとロードマップが提供されました。

VIII. NY オンライン脚本ワークショップ（新規）

【開催時期】2023年11月～2024年2月（内、計3日）

【講師】Christina Lazaridi 氏ほか

【参加者】小林達夫監督、中川奈月監督

コロンビア大学スクール・オブ・アーツの脚本講師やNY在住の映画プロデューサーを迎え、オンラインでの脚本全体および個別指導による集中的な脚本指導やフィードバック指導を通して脚本のさらなるブラッシュアップを図った。

セッションは脚本講師による①脚本講義と②個別指導、およびプロデューサーらによる③脚本フィードバックの3構成で実施した。

⑦ IKURA 事業

I. 【事業内容】

映画監督によるオリジナル企画と映画プロデューサーを繋ぐマッチングサービスの運営。

▼IKURA 公式サイト》 <https://www.ikura-vipo.jp/>

II. 【事業目的】

監督と製作サイドの出会いを創出し、作家性を中心に据えたオリジナルの日本映画製作を後押しする。

III. 【実施事項】

- 1) 映画企画ブラッシュアップ講座&ピッチトレーニング
- 2) プロデューサーと監督のマッチング
- 3) 映画企画ブラッシュアップ勉強会
- 4) コラム・インタビュー記事（ウェブサイトにて公開）

⑧ カンヌ 監督週間 in Tokyo

「カンヌ国際映画祭」の独立部門である「監督週間（Quinzaine des Cinéastes/ Directors' Fortnight）」と締結したコラボレーション契約の一環として、2023年12月8日（金）～21日（木）の2週間、アジア初上陸と

なる「カンヌ監督週間 in Tokyo」をヒューマントラストシネマ渋谷にて開催しました。カンヌ国際映画祭「監督週間 2023」で上映された長編・短編映画と VIPO セレクトの日本映画を計 17 本上映。ELLE JAPAN や U-NEXT といったメディアパートナーとも提携して広く告知を行いました。オープニング上映には「監督週間」アーティスティック・ディレクターのジュリアン・レジ氏が登壇し、上映作品の解説等を行いました。さらに Shibuya Sakura Stage での映画関係者を招いてのレセプションパーティを開催し、多くの映画関係者にご参加いただきました。また、「監督週間」で上映された邦画の特別上映・監督等を招いてのトークや、「監督週間 2023」に日本人で唯一エントリーを果たした平井敦士監督の Q & A 等も実施し、観客の皆さまに大変好評をいただきました。

「カンヌ監督週間 in Tokyo」上映作品（全 17 作品）

『The Goldman Case／ゴールドマン裁判』 監督：Cédric Kahn

『Mambar Pierrette』 監督：Rosine Mbakam

『Inside the Yellow Cocoon Shell／黄色い繭の殻の中』 監督：PHAM Thien An

『In Our Day』 監督：Hong Sangsoo

『Creatura』 監督：Elena Martin Gimeno

『In Flames』 監督：Zarrar Kahn

『Riddle of fire』 監督：Weston Razooli

『The feeling that the time for doing something has passed』
監督：Joanna Arnow

『Grace』 監督：Ilya Povolotsky

『The Sweet East』 監督：Sean Price Williams

『Agra』 監督：Kanu Behl

『The Other Laurens』 監督：Claude Schmitz

『ゆ』（短編） 監督：平井敦士

『フレネルの光』（短編） 監督：平井敦士

『ナナメのろうか』（短編） 監督：深田隆之

※特別上映、トークイベント開催

『ゆれる』 監督：西川美和

『極道恐怖大劇場 牛頭』 監督：三池崇史

⑨ VIPO Film Award

提携先の企画マーケットに選出された企画を審査し、賞金賞である VIPO アワードを授与する自主事業です。今年度の提携先企画マーケットは、6 月

下旬開催の「NAFF It Program／プチョン国際ファンタスティック映画祭」、10月上旬開催の「Asian Project Market (APM)／釜山国際映画祭」、そして、1月下旬開催の「CineMart／ロッテルダム国際映画祭(IFFR)」で、外部審査員と共に授賞者を決定しました。今年度はプチョンにて SINN Kirin 監督、Thim Kian CHENG プロデュースの「Maiden Home」(韓国、インドネシア、マレーシア) へ、釜山にて JIANG Xiaoxuan 監督、MO Zhulin プロデュースの「To Kill a Mongolian Horse」(中国) へ、そしてロッテルダムにて Alejandro T. Tarraf 監督、Felipe Lage プロデュースの「Alumbre」(スペイン) へ VIPO アワードを授与しました。

- ⑩ プチョン国際ファンタスティック映画祭 企画ピッチ「NAFF It Project」(6月30日～7月3日、韓国・富川)、「NAFF Fantastic Film School」(6月29日～7月5日、韓国・富川)
- アジア最大のジャンル映画の企画マーケットである「プチョン国際ファンタスティック映画祭」の企画マーケット「NAFF It Project」との提携により「Spotlight Japan」として VIPO が5企画を推薦。監督とプロデューサーが現地でピッチを実施したほか、「Spotlight Japan Pitching & Luncheon」では、マーケット参加者に向けてオープンピッチを実施しました。
- 参加5企画は、「Asian Discovery Award」を受賞した「炎の中の女」(中川奈月監督、小川真司プロデューサー)、「夜は千の眼を持つ」(高橋洋監督、古山知美プロデューサー)、「鬼」(渡辺紘文監督、渡辺雄司・松林うららプロデューサー)、「THE SHADOWS in TOKYO」(熊切和嘉監督、松田広子・草野江里加プロデューサー)、「Dulia」(佐久間啓輔監督、林健太郎プロデューサー)。
- また、プロデューサー育成のプログラム、「NAFF Fantastic Film School」に、プロデューサー2名(シモエダミカ氏、寺地真一氏)が参加し、7日間のワークショップ(ピッチング、脚本開発、セールス、配給)で国際共同製作を目指すにあたり重要な要素を学びました。

- ⑪ VIPO Indie Game Pitch Showcase (7月14日、京都)
- 日本最大のインディーゲームイベントである BitSummit のメインステージにおいて、5つのゲーム(UNRESTRICTED、Omega Crafter、Tokyo Underground Killer、Hell Hell、ジオラマナイト)による国内外のパブリッシャー・投資家向けのピッチイベントを実施しました。会場では約20名が、オンライン配信(YouTube Live)では約140名がピッチを視聴。メデ

ィアでも数多く取り上げられました。ピッチを見た海外企業とミーティングを行い、パブリッシングの話が進んでいる案件もあります。

⑫ 「ATF×TTB Animation Lab & Pitch 2023」(12月6日～8日、シンガポール)

ATFとTTB(Ties that bind-ヨーロッパとアジアの国際共同製作を推進することを目的としたプログラム)が協力し、Asia TV Forum & Market(ATF)にて、アニメーション業界のためにキュレーションされたレクチャー、ピッチング、マーケット参加の機会を提供する新しいプログラム。資金調達や国際共同製作の新たな機会や新規市場を求め新しい視聴者層へのリーチを目指しているアジアとヨーロッパのプロデューサー9名が、オンラインと現地でのラボ、ピッチセッションに参加しました。日本からは、Jet Set Goが参加しました。

⑬ 交流促進事業

I. 海外の同様の機関等と交流の推進

- 1) 2023年8月、韓国・全羅南道・順天市庁(スンチョン)より市庁の文化芸術課ご担当者等8名が来訪されました。VIPOより日本のコンテンツ産業の現状と公的支援の状況について説明した後、質疑応答及び意見交換を実施しました。
- 2) 2023年9月、韓国コンテンツ振興院(KOCCA)の兪炫碩副院長と李咏勲日本ビジネスセンター長が来訪されました。理事長参加の下、当機構の事業概要を説明すると共にKOCCAの事業方針についてお話を伺いました。

(4) 組織運営

① 会員の状況

I. 新規入会

個人会員 0名 法人会員 0社 賛助会員 0社

II. 退会

個人会員 1名 法人会員 2社 賛助会員 2社

III. 現在の状況

- ・会員数：個人会員 1名 法人会員 101社 賛助会員 4社
- ・会費及び入会金 入金額(予定含む) 46,610千円(昨年比1,310千円減)

② 通常総会、理事会、幹事理事会

本年の通常総会、臨時総会、理事会、幹事理事会はいずれも参加者の利便性を考慮に入れ、実参加に加えオンラインでのご参加も可能とする方法にて開催致しました。

I. 通常総会及び臨時総会

- ・本年度は令和5年6月29日に通常総会を開催し、令和4年度の事業報告・会計報告、令和5年度の事業計画・予算・役員の選任等について決議をいただきました。
- ・また、令和5年12月25日に臨時総会を開催し、監事1名を選任いただきました。

II. 理事会

- ・令和5年6月9日に開催し、通常総会の審議事項について決議いただきました。
- ・令和5年6月29日に開催し、幹事理事互選について決議いただきました。
- ・令和5年12月8日に開催し、中間事業報告を行うと共に、臨時総会招集の件、役員選任の議案について臨時総会付議の件を決議いただきました。また、コンプライアンス体制及び状況について報告いたしました。

III. 幹事理事会

- ・令和5年4月25日に開催し、令和4年度の事業報告(案)及び決算見通しの報告を行いました。また、令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)の報告を行いました。
- ・令和5年6月9日に開催し、通常総会の審議事項及び理事会の審議事項について報告を行いました。
- ・令和5年12月8日に開催し、中間事業報告を行うと共に、臨時総会招集の件、役員選任の議案について臨時総会付議の件を検討いただきました。また、コンプライアンス体制及び状況について報告いたしました。

IV. 会員交流会

例年、通常総会後に開催している会員交流会ですが、本年度は開催致しませんでした。

(5) 広報活動

① 「VIP0 年間活動報告 2022」の発行

「VIP0 年間活動報告 2022」(44 ページ) を 6 月 29 日付にて発行し、会員及び役員に配布しました。事業・広報活動等において“対面”で説明する際に活用しております。海外向けとしては、英語サイトの更新を随時行うようにしています。

② ホームページの運営

ホームページにおいて、随時活動報告及びコンテンツ業界の情報を掲載いたしました。

2016 年 9 月より開始したコンテンツ業界に関わる人やイベントをテーマにしたインタビュー企画では、以下を取り上げました。

■2023 年 5 月

「コンテンツコラボ」の今を斬る！日本のコンテンツは世界と戦う武器になれるのか？！——ライセンサーとライセンシーをつなぐエージェントに聞く

■2023 年 6 月

映画『ブレット・トレイン』における、日本発楽曲のシンク活用 ～シンクビジネスで拓がる未来の可能性～

■2023 年 9 月

イタリア企画マーケットに参加した若手プロデューサー小山内照太郎、鈴木徳至、後藤美波、3 人に聞く！ 国際共同製作の魅力と今世界はどうなってる……？

〈前編〉「ひらめきやエネルギーは国際映画祭やマーケットに参加すると生まれる！」

〈後編〉「世界中に友だちがいたほうが作りたい映画が作りやすい」

■2023 年 11 月

「みんななかよく」に込められた思いと、「第二の創業」として経営に挑んだサンリオの未来とは

サンリオ社 朋邦社長 (VIP0 アカデミー「コーポレートリーダーコース」経営者講演より再構成)

■2023 年 12 月

「カンヌ 監督週間 in Tokio」特別企画——フランスと共同製作で映画を作る平井敦士監督のカンヌまでの軌跡とその後

■2024 年 3 月

アジア初開催！「カンヌ監督週間 in Tokio」アーティスティック・ディレクター ジュリアン・レジ氏インタビュー ～「監督週間」が求めるものと新たな挑戦をするすべての映画監督たちへ

■2024 年 3 月

内閣府に聞く——「海外展開」がキーとなる新たなクールジャパン戦略とは
～日本独自の商慣習や制作手法の見直しとデジタル化・DX 化の必要性～

③ VIPO 会員とコンテンツ事業者へのメール配信

VIPO の活動報告を毎月定例で発信する「VIPO プレス」の発行と、会員各社の情報や事業活動などを不定期に発信する「VIPO ニュース」を継続的に発信しました。メールニュースの配信先数（コンテンツ事業者）は、約 11,151 件（2024 年 3 月 21 日現在）です。

以上